

令和 6 年度第 3 回 柏市教育政策審議会 会議録

1 開催日時

令和 6 年 9 月 4 日（水）

午後 10 時から午後 12 時まで

2 開催場所

柏市役所 沼南庁舎 5 階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

天笠会長，寺本副会長，中田委員，伊藤委員，藤崎委員，川本委員，遠藤委員，青木委員，入道委員，少路委員，神田委員，坂本委員，古橋委員，阿部委員（計 14 名）

(2) 事務局

田牧教育長，原田教育総務部長，宮本生涯学習部長，福島学校教育部長，依田学校教育部長上席技監，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，中村教育総務部次長兼学校給食課長，原学校教育部次長兼学校教育課長，籠教育総務課長，田村教育政策課副参事，柳澤教育政策課副主幹，布施教育政策課主査，平川教育政策課主事，加藤教育政策課教育専門アドバイザー，古谷教育施設課長，佐藤学校給食センター所長，竹内生涯学習課主幹，渡辺学校財務室長，福田教職員課長，平野指導課長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所長，幕内市立柏高等学校事務長（計 23 名）

4 教育長のあいさつ

5 前回審議会の振り返り

会長進行のもと，資料 3 に基づき，前回審議会の会議録について，全会一致で承認された。

（天笠会長）

1点検討していただければと思います。例えば中央教育審議会では、審議がどんな形で進んだか会議録でその進行がわかるようになっています。これまでの柏市の審議について、国の場合と同様に、事務局の発言がどんな説明だったかどうかということも記録に残しておくことがいいのではないかと思います。

→前回審議会の会議録より、事務局からの説明についても記載するよう変更した。

6 本日のスケジュールについて

資料4に基づき、本日の審議会の位置づけ及び議題を確認した。

7 議題

- (1) 目指す子ども像について
- (2) 目指す学校教育の実現に向けた取組みについて
- (3) 基本方針の骨子案について

資料に基づき、事務局より説明した。

議事(1)については、前回の審議会での審議を踏まえ、「自他の対話を大切にしながら 学び続けるかしわっ子～よりよい自分よりよい“かしわ”を目指して～」とする案を提示した。

議事(2)については、各種取り組みのうち、以下の9つの項目について事務局から説明するとともに、前回説明した「小中一貫教育の推進」の取り組みとして、小中学校両校種免許状取得の促進することを追記する旨、委員に提案した。

- ア 教育相談の充実
- イ 子どもの居場所
- ウ コミュニティ・スクールの活性化
- エ 市立柏高等学校の魅力化
- オ 教職員研修の充実
- カ 将来を見据えた学校のあり方
- キ 新しい時代の学びを実現する学校施設の整備
- ク 安全・安心な学校施設の充実
- ケ 心身の健康を支える給食の提供

議事(3)については、これまでの審議会で議論してきた内容を、

第 1 章「基本方針の概要」、第 2 章「学校を取り巻く現状と課題・その背景」、第 3 章「柏市が目指すこれからの学校教育」、第 4 章「目指す学校教育の実現に向けた具体的な取り組み」の 4 章構成でまとめた「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針骨子（案）」を提案した。

《以下、委員からの意見及びそれに対する事務局からの回答》

(1) 目指す子ども像について【資料 5】

（天笠会長）

目指す子ども像についての意見をお伺いいたします。いかがでしょうか。

（中田委員）

委員の皆様の意見が反映できていると思います。「より良い自分になるために」という文言が副題として記載されたことで、非常にすっきりしたと思います。

（坂本委員）

「よりよい自分になるために」を副題に移動させたことで、自己の確立だけではなく、社会や地域との関わりが組み込まれたため、とても良くなったと思いました。また、この言葉が浸透していくと良いとも思いました。

（神田委員）

「よりよい“かしわ”を目指して」とありますが、やはり柏に住んでいることを誇りに思って、「柏のために何かしたい」とあるとか、「大人になっても住み続けるぞ」みたいなことを、今の子ども達にも感じてもらいたいと思いますので、“かしわ”という言葉が出てきたのは良かったなと思いました。

（阿部委員）

2 人の委員から意見がありましたように、例えば 2 ページで例に挙げられている文部科学省の「社会に開かれた教育課程」でもありますが、基本的に教育とは「自分以外の何かのために」という要素が大きいかと思いますので、そういう点では、象徴的に“かしわ”という表現を使って、そこで示していただいたのは良いと思います。

（藤崎委員）

皆さんと同じ意見です。「よりよい自分 よりよい“かしわ”を目

指して」とサブタイトルで並列させたことは、前回の議論が上手く集約されていると思います。

（天笠会長）

他によろしいでしょうか。委員の皆様から了解を得られたということにいたします。

（2）目指す学校教育の実現に向けた取組みについて【資料6】【参考資料1】

（天笠会長）

資料6に沿って、1つ1つについて御意見を求めます。まずは、「教育相談の充実」についてお願いします。

（少路委員）

スクールソーシャルワーカーの方は、今中学校区に1人配置されていて、全国的に見ても柏市が進んでいる話を聞いています。しかし、小学校には、専属のスクールソーシャルワーカーがおらず、私のところでは、1人のソーシャルワーカーの方が、中学校1校と小学校3校、計4校の子どもたちを見てくださっており、問題がたくさんあることから、「1人だと大変そうだな」、「苦勞されているな」と感じています。小学校が手薄とは言いませんが、小学校だけでも様々な問題があるため、専属のスクールワーカー等、教育相談できる方を配属していただけると良いのではないかと思います。

（天笠会長）

大切な意見ではないかと思います。かつては比較的中学校においての問題行動が多いことが課題として挙げられていましたが、むしろ小学校のときにこそ適切な対応を実施していくことが将来の予防に繋がってきます。そのような観点から大変貴重な御意見でした。

（入道委員）

私は、スクールソーシャルワーカーの方と、地域の主任児童委員の立場として、年に1回集まって交流し、活動の内容を聞いたり、意見交換したりしています。地域で活動していて、お手伝いができる人はたくさんいるので、地域からの協力が得られる学校づくりの観点から、このような方と学校との繋がりも考えて欲しいなと思います。

（天笠会長）

地域との繋がり，連携について一層の充実と，一層のシステムの充実，そのような観点から，人の手配も含め，お願いしたいという意見でした。

（中田委員）

スクールソーシャルワーカーの方が，中学校区を広く見てくださっている現状のシステムはとても有効だと思います。人手が足りないという考えがないというわけではないですが，あえて1人とし，中学校区全ての地域の方，保護者の方と繋がるこのシステムは，非常に学校の管理職としては頼れるし，一緒に進めるという意味では大変ありがたいです。

（天笠会長）

もちろん，それぞれの小中学校ごとに，充実に向けた更なる対応をして欲しいことは言うまでもないことですが，御指摘のように，学校との繋がり，地域の繋がりを考えた場合，中学校区に1人スクールカウンセラーが配置されている現状のシステムは，教育相談の充実において一つの対応策です。地域との連携体制の充実，強化について，より具体的な対応を出していただけるとありがたいです。

（藤崎委員）

本校においても，中学校区に1名配置していただいております。スクールソーシャルワーカーは，福祉の専門家であるため，困り感を抱えている家庭に対してもサポートしていただいております。その中で兄弟関係についても見えてくるところもあるため，中学校と小学校を全て網羅しているこのシステムは，とても良いと思っています。ただ一方で，現在本校には週2日来ていただいておりますが，1人でサポートするのは，非常に大変な状態なため，日数や人数の拡大は大きな課題だと思います。

また，スクールカウンセラーにおいても，柏市の場合，千葉県スクールカウンセラーと，柏市独自のスクールカウンセラーと，二重のねじれの状態があります。例えば千葉県のスクールカウンセラーを配置して，増員として柏市のスクールカウンセラーを配置するケースもあります。そうすると，カウンセラー同士の連携が上手く取れないことがございますので，スクールカウンセラーについても，

もう少し日数を増やしていく，あるいは人員を増やしていくことが必要であると考えています。

（天笠会長）

続いて、「子どもの居場所」についてお願いします。

（藤崎委員）

「子どもの居場所づくり」は大切な視点であり，かなり充実しているなという思いはありますが，どうしても小学生が対象なのかなという印象が強いです。例えば，部活動の地域移行が進み，部活をやらない生徒たちの居場所を考えたときに，この中学生向けの居場所も必要だと感じました。

（入道委員）

「子どもの居場所づくり」はとても大切なことであって，進める方向で検討していただくのは大変ありがたいと思います。やり方に関しては，検討段階とのことではありますが，しっかりと検討して欲しいと思います。是非，実際に学習会に行って，どのように子どもたちが学んでいるか見ていただいた後に，学習型を居場所型に集約していくのかの判断をしていただきたいと思います。

（天笠会長）

現状，「子ども」について幼児や児童を定義づけていますが，中学生あるいは高校生も含めた場合の「子どもの居場所」を考えたときには，社会教育施設等との接点を持たせた意見も出てくるのではないかと思います。現状にとらわれない 10 年先，将来を見据えた発想も必要であると考えます。

（阿部委員）

地域で心配しているのは，柏市は，部活動の運営方法が変わったことです。現在土日の部活については，地域移行されております。従来は，部活動等により学校の教職員が生徒を気にかける環境がありましたが，その環境を地域がそっくりそのまま引き継ぐことは無いと思います。そうすると，土日に子どもたちが，地域にウロウロすることが予想されます。子どもの数がどんどん減っているのも，何とも言えないところではありますが，それを少し心配しています。補充学習型ではなく，どちらかというと居場所型の環境づくりを整えてほしいです。

（神田委員）

学校の学童保育に子どもを1年生から入っていますが、4年生以降になると人数が限られて、行きづらくなり、4年生から利用していないです。しかし、変わらず親は仕事していて帰宅するのが遅いので、高学年とはいえ、子どもだけで家で待たせることはとても心配です。

子ども同士で遊んで欲しいとの思いもあったので、民間の学童保育を利用したこともありましたが、費用が高いため、高学年の子が放課後にみんなで居られる場所ができたら良いなと思います。

自身は利用したことはありませんが、駅前にできた「tetote」には、高学年児童や中学生の居場所も整備されていると聞いたので、学校と連携をして、放課後に活用できると良いなと思いました。

（天笠会長）

続いて、「コミュニティ・スクールの活性化」についてお願いします。

（入道委員）

学校運営協議会は、それぞれ学校で2年目、3年目と始まったばかりで、これから地域とどんどん繋げていく段階だと思います。将来、学校を核とした地域社会づくりを目指すのであれば、その学校運営協議会からだけの発信だけではなく、地域や市などが、PRをしていただけると、もっと動きやすいと思います。

（少路委員）

地域学校協働活動推進員の研修を受け、学校運営協議会と地域の活動を行っています。私の地域は上手く活動はしていると思います。ただ、地域の考え方と学校の考え方に若干のずれがあり、そこら辺のすり合わせがまだ難しい段階です。色々なコミュニティ・スクールの話や、地区の話を聞いていると、地区によって考え方や進め方があり、一概に言えないことがあります。地域に合った活動していけばいいと思います。

（阿部委員）

個人的にコミュニティ・スクールの方向性は、地域の教育資産が学校とどうリンクするかというところかと思っています。私の地域には「下田の杜」があり、小学校の教育カリキュラムの中に入り込んでいるため、非常に魅力的な、環境にあると思っています。

「地域とともにある学校づくり」それから「学校を核とした地域づくり像」について、とても考えさせられます。というのも、一方では学校規模や、通学区域の問題があって、地域は区切られてしまいます。私の町会内の児童も2つの小学校に分かれて進学しています。実態としては、通学状況の関係で区切られていますので、必ずしも「地域とともにある学校づくり」ではなくなっています。もし、義務教育学校や小中一貫という形で教育を進めていくとすれば、推進していく中で、ある程度解消していただきたいという思いもあります。

（天笠会長）

私もこのコミュニティ・スクールに関わって、色々な所で発言させていただいています。その一つとして、コミュニティ・スクールの学校運営委員会のメンバーに20代の人を入れるというものがあります。どうしても発足の時点では、年齢が比較的高い方をお願いせざるを得ない現状がありますが、次のステップとしては、20代の方に加わっていただくことが将来を見据えたときに大切だと思います。

続いて、「市立柏高等学校の魅力化」についてお願いします。

（遠藤委員）

市立柏高校は、非常に魅力があるということを赴任して、数日間で感じました。赴任する前にも、市立柏高校は先輩や卒業生から様々な話を聞いて期待しておりましたが、兄弟で通ったり、親子で通ったりと、とてもリピーター率が高い学校であるなと思いました。それから、学校や教育現場に1番詳しい教員の子どもも通ったりしています。

また、学校施設についても魅力がありまして、冷暖房完備や洋式トイレ、ICT機器が導入されているなど、学校施設面での魅力もございます。

（天笠会長）

柏市の市民の皆さんに愛される市立高校が大切なことだと思います。市立高校にはどういう校訓が掲げられているのですか。

（遠藤委員）

校訓は「清く やさしく より高く」です。

（天笠会長）

その校訓が柏市の市民の皆さんの合言葉となるには、どれくらい時間がかかるでしょうか。それとも浸透しているのでしょうか。

（遠藤委員）

市民の方がこの校訓を知るタイミングはないかと思います。

（阿部委員）

大変失礼なことを申し上げるかもしれませんが、市立柏高校の魅力や存在意義が柏市民に伝わっているとは言えないと思います。私の甥っ子がお世話になりましたが、これから先、財務的にも人的にも厳しい環境を迎える中で、県立高校との差別化を考えると、魅力も含めて打ち出す時期が来ていると思います。そういう点で見ると、市立柏高校の魅力が必ずしも伝わっていると私は言えないと思います。

（天笠会長）

そういう点からすると 30 年先とか 50 年先に市立柏高校が、柏において大切な存在として残るために、どのような戦略戦術で魅力を高めていくのか、問われているところだと思います。まさに地域に根差すところがとても強いと思いますし、少なくとも毎年数百人の卒業生が、柏市で更に人生を歩まれると思います。市立柏高校の魅力化について、市民の方からの声が大切になってくるとは思います。皆さま御意見はございますか。

（神田委員）

市立柏高校卒業生が、お互い卒業生だと聞くと盛り上がって話し合っていることを見る機会が多く、羨ましいなと思うことがあります。具体的に高校で何を実施していて、どういう施設があって、どういう魅力があるのかは分からないのですが、卒業生同士での一体感が生まれているという場面を何度も見ていますので、とても良い学校であると私は認識しています。

（天笠会長）

校訓が市民との間に非常に近いところにある学校が全国にあるので、是非、市立柏高校の目指す方向の 1 つに、その辺りのところも、打ち出していくのも 1 つではないかと思います。

続いて、「教職員研修の充実」についてお願いします。

（中田委員）

教職員の資質能力の向上は必須だと思います。同時に、教職員の姿は子どもの姿と同一であると感じていますので、主体的に学ぶ子どもを育てるには、主体的な教職員である必要があると考えております。そのため、研修は与えるものではなくて、自ら学ぶものになっていかなければいけないと感じていますし、市の体制と、教職員のモチベーション、両方をバックアップする必要があると思います。

（天笠会長）

他にいかがでしょうか、この議事については、ここまでとします。

次に、「将来を見据えた学校のあり方」について、意見を申し上げます。小中一貫教育の推進は、前回、意見をお願いしましたけども、それについて新たに追記されました。そこを含めまして、将来を見据えた学校のあり方について、御意見がありましたらお願いいたします。また、望ましい学校の規模ですとか、あるいは通学の距離についてでも問題ございません。無いようなので次に行きます。

続きまして「学校施設の整備」について申し上げます。

（寺本副会長）

スライド8，方向性④の地域と連携・協働する空間や他の公共施設等との共用化・複合化の検討で、何か具体的なイメージがあるのか教えてください。

（事務局）

市内の小中学校はすべてコミュニティ・スクールとなっていますので、そういったところで地域ルームを学校施設内に設ける取り組みをしていたり、子どもの居場所として子どもルームを学校内に配備したり、防災機能として避難所の機能を、学校施設として倉庫を設けたりなど、共用化について一部行っています。今後さらに子どもの数が減少していく、学校規模を一緒に考えていく段階になったときに、第6次総合計画の話もありますが、他の公共施設の見直しと併せて学校のあり方について、他の公共施設とセットで共用化・複合化の検討をしていくというところを打ち出している状況です。

（寺本副会長）

「子どもの居場所づくり」と繋がってくると思うのですが、こども家庭庁では、「心身の発達の過程にある者」を子どもと定義しており、年齢で区切っているわけではないため、当然中高生世代も含ま

れております。

柏市では、2箇所を大きな拠点として中高生の居場所の整備を進めていくとのことですが、中学生、高校生の居場所を学校の中に設置するのも良いと思います。

自分の住んでいるコミュニティの中で立ち寄れる、大人の緩やかな見守りがある安全の中で、過ごせる時間という視点から考えると、相乗的な考えも必要なのかなと思います。

（天笠会長）

資料6-2の学校施設の整備について、新しい時代の学び実現し、さらに加えて、安全安心な学校施設の充実ということについて、御意見をお願いできればと思います。

この学校の施設というのは、先のことを見据えて新しい学校施設が紹介されますが、明日すぐという話にはなかなかありません。予算の問題もありますが、どうしても古いものを抱えざるを得ないといけません。そういう意味で長寿命化の視点からの改良工事というのを、どれほど進めていただけるかということになります。これは別に柏市だけでなく、この国全体が非常に老朽化した施設を抱え込みながら、その中で、将来を見据えていこうと模索しているところでは。

（阿部委員）

建物について、1回建てると50年近く維持しなくてはならない、学校はそのような要素が強いです。新しい建築基準法が施行されたり、色々な新しい条件が変わったということは、10年、15年で改修、手入れをするようなルールを行政として欲しい気がします。これが一律できるかどうかは財政上の問題があると思いますが、学校が避難所になっている観点から言うと、電源設備を入れて欲しいです。

（天笠会長）

避難施設の学校という意味においては、これこそ急ぐ喫緊の課題ではないかと思います。その反面、学校施設の整備は、かなり長い目で取り組まれています。御指摘のように世の中のマンション等々を見ますと、一定の時間の中でメンテナンスが実行されていますので、国の学校長寿命化計画があるかとは思いますが、学校もマンション等と同様の定期的な改修・点検の考え方を示した柏市版の計画があってもよいと思います。

続きまして「給食」についてお願いします。無いようなので、次の議事をお願いします。

(3) 基本方針の骨子案について【資料7】【参考資料2】

(天笠会長)

全体を通しまして、お気づきの点、御意見等々一言をお願いできればと思います。

(神田委員)

とても良くできていると思います。いろいろ皆さんと話し合ったことなどが反映されていて、とても分かりやすいなと思いました。

(坂本委員)

これまで私達が話してきたことが、綺麗にまとまっていて素晴らしいなと思いました。アンケートを実施したかと思うので、そちらも入れていただけるといいなと思います。

(古橋委員)

給食室について、1つ私の意見として、まだエアコンがない学校が多いということです。15%の学校しか温度や湿度が最適に管理されていないとのことです。空調整備を早急にしていただけたらなと思います。衛生管理は重要かと思うので。

(阿部委員)

骨子案1枚目の3章、3の表現にちょっと引っかかります。「柏市の目指す子ども像」の表現について、色々な人たちの意見を全部取り込んだ形で議論しないといけないと個人的に思います。そういう意味で、例えば、「柏市の学校教育が目指すこと」というようにしたほうが私は良いと思います。

(少路委員)

自分達が考えたことが、上手い具合に入っているなって思いました。将来的に子ども達が良い方向に行ける学校づくりができれば良いなと改めて思いました。

(天笠会長)

もう少し強調したほうが良い箇所などありますか。

(少路委員)

普段、コミュニティ・スクールだったり、子どもの居場所の部分で、子ども達や学校の先生方の活動を一緒にしているので、細々し

たことに目が向きがちなため，なるべく大きな視点でみたいと思っています。やはりこれから共働きの家が増えて，日常的に両親が居なくて子どもだけになる機会も多いかと思いますので，子どもの居場所について少し力を入れて考えた方が，子ども達にとって良いと思います。

（入道委員）

素晴らしいなと思いましたが，最初から気になっているところは，学校生活を9年間続けることです。小中ギャップがなくなって良いのではないかという反面，9年間ずっと辛い立場で過ごすこととなったら可哀そうだなと思ったりします。

また，子ども達のために先生方が能力を高めることが大事とのことでしたが，先生の働き方改革で色々取り組んでいることについて，例えば小規模の学校の場合，音楽の先生が講師になってしまう等の話がありました。その方々は時間外のところでとても取り組んでいるかと思しますので，例えば予算を取るなどして，教職員の給与の補填等に回していければ良いのになと思いました。

（青木委員）

「誰一人取り残さない学校教育の推進」ということで，前回視察に行った学校で一番印象に残ったのは，9年間を通して，一貫した見守りができるという点でした。その点が入っていると，親としては安心できるかなと思います。

また，「子どもの居場所づくり」について，6年間を通して実施するような長いスパンでなくてよいので，単純に居場所だけでも作っていただけたらなと思います。

（遠藤委員）

骨子は素晴らしく網羅されたものであると思います。あとは現場で働く教員がどのぐらい認識して，しっかりやっていけるかだと思います。

（川本委員）

これまでの膨大な資料や検討内容を踏まえて，流れも分かりやすく，基本方針としては良くまとまっています。

（藤崎委員）

骨子としては良くまとまっておりますが，一番重要なのは，第4章の具体的な取り組みのところかと思しますので，これを今後充実

させていけるように議論を進めていければと思います。

（伊藤委員）

私も同様に第4章の具体的な取り組みは、とても大事だと思います。「誰一人取り残さない学校教育の推進」について、子どもたちの多様な学びを保障するためにも、「誰一人取り残さない」というキーワードは、とても重要になると思います。やはり地域との繋がりであったり、今日議論された「教育相談の充実」「子どもの居場所」のところが、大事になってくると思います。

（中田委員）

私も具体的な取り組みは、とても大事で、直結してくるところだと思いますが、それを考えるには、やはり子ども像についてみんなが一緒にイメージを持たなければいけないというところに帰るなと思いました。子どもと学校教育のみならず、柏の皆さんと一緒に共有できるような発信を、こちらはしていかななくてはいけないと思いました。

（寺本副会長）

これまでの議論を踏まえて、整合性が高く、資料として素晴らしく良くできているなと思いました。「柏市が目指す子ども像」もうまく議論が集約されているなと思いました。30年後を見据えた方針とこのことですので、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念や、前回視察した阿蘇米本学園のESDの理念を踏まえると、グローバルという言葉に少し意識したいなと思います。

ややもすると、自分が良くなれば、柏が良くなればそれで良いみたいな内向き志向な感じに受け取られてしまう可能性があります。「自分が良くある姿」や、「柏が良くある姿」は、必ず世界と繋がっていると思いますので、グローバルな視点をどこかに取り入れられたらの良いなと思いました。そうすると30年先とか今の教育課題も意識している子どもの未来像ということで全体的にバランスが良いのかなと思います。

どこでどう取り上げればいいのか、そこまで具体的な案はないですが、内向き志向ではないとこのことを、柏の皆さんと一緒に共有できるような発信をしていけたらいいなと思いました。

（天笠会長）

委員からの意見は、とても貴重だと思いました。その上で、また

次回以降，意見をいただければと思います。

9 傍聴

(1) 傍聴者

10名

(2) 傍聴の状況

傍聴要領に反する行為は，見受けられなかった。

10 配付資料

(1) 次第 令和6年度第3回柏市教育政策審議会

(2) 【資料1】 柏市教育政策審議会委員名簿

(3) 【資料2】 席次表

(4) 【資料3】 令和6年度第2回柏市教育政策審議会会議録(案)

(5) 【資料4】 柏市教育政策審議会の進行スケジュール(予定)

(6) 【資料5】 目指す子ども像と学校教育

(7) 【資料6】 目指す学校教育の実現に向けた取り組み

(8) 【資料7】 基本方針骨子案

(9) 【参考資料1】 目指す学校教育の実現に向けた取り組み

(10) 【参考資料2】 学校別児童生徒数学級数推計